



市指定文化財

賢明寺の銅灯籠 (久居元町)

久居元町にある登録有形文化財「^{あぶしょう}油正ホール」を南へ250mほど行き、右へ曲がると、賢明寺の朱塗りの荘厳な山門が見える。山門をくぐると、閑静な境内の正面にきれいな銅灯籠が建っている。

灯籠の高さは2.4mで、少し仰ぎ見るぐらいである。笠の飾りは失われているが、八角形の火袋は^{ひぶくろ}亀甲紋様である。受台の周りには藤堂家の家紋である^{つた}蔦紋と三頭^{さん}藤巴紋が対になっており、台座には獅子・龍が浮き彫りにされている。竿には、^{じょうきよう}貞享2 (1685) 年の年号と寄進者の紋 (三頭藤巴紋)、作者である^{おお}鋳物師の^た太田^{きゆう}久右衛門^{えもん}正儀^{まさよし}の銘が刻まれている。年号と紋から、寄進者は久居藩初代藩主藤堂^{たかみち}高通と考えられ、久居藩と賢明寺との関係がうかがえる。

灯籠は、今もその秀麗な姿をとどめ、訪れた人の目を楽しませてくれている。

(「広報津」平成21年9月1日号)

